

●炭焼き体験：炭窯開き 原木の状態を勘案して上出来といえる 空気遮断時期がむづかしい

昨年の炭焼き経験では、すべてが灰になってしまう大失敗をしてしまいました。それで今年は打田薪炭組合の植西晃干さんに教えをお願いしました。これまで打田の炭焼き窯では山のクヌギやコナラを切り出して寸法や太さを調整して1ヶ月ほど日陰で乾燥させて適当な水分の時に炭に加工してきました。今回の原木は昨年の余りを使つてのことでしたのでかなり乾燥が進み難しい作業でした。植西さんからは火の付き具合が早いかもしれないからと注意を受けての取り組みになりました。窯いっぱいには原木を詰め込み、着火を翌日の13日の午前8時過ぎに行いました。煙突からは勢いよく白い煙が勢いよく排出されました。(これまでだったら最初は黒煙が再出されるのですがいきなり白煙でした)。そして15時過ぎには少し勢いが弱まったので空気口を太い筒に変えて翌朝までと決めました。14日の朝8時には空気口を遮断して窯の温度が下がるのをまって、4月3日に窯開きをして炭の出来具合を見てみました。昨年のように灰にはなっておらず原木の姿が残っていました。うまく出来上がっているようで一安心です。4月22日に窯出しをすることにしています。



●第15回親子花見乗船体験



コロナで開催できなかったですが、昨年はかなり無理をして開催し、多くの人々から来年も開催をと希望があり、第15回目の開催にこぎつけることができました。季節の移りは桜の開花が早くなって、入学式の時期が満開になっている頃と比べると随分変化しました。今年もどうなることかと心配しましたが、この日は満開で水面には花筏が敷き詰められての取り組みになりました。

綴喜西部土地改良区や田辺府営団地連合自治会の理解協力があつて、スムーズに開催できました。昨年からはメールでの参加申し込みを受け付けることになり、一定の参加数が把握でき運営規模が予測できました。昨年も今年も最低申込人数を100人で締切としましたが、当日の飛び込み参加のための余裕がかなり生まれるようになり150人近くの参加希望者を受け入れることができました。奈良県からの方や大阪市内からのご参加が多くありました。今、里山の会の中心はかなりの高齢者です。次代を担ってくれる世話を痛切に求めています。参加された奈良からのお母さんは、それなら来年はお手伝いをさせていただきます、とのお返事をいただきました。また参加者の皆さんから感想文をいただき喜びを述べてくれています。現在は喜びを受け取る側におられますが、きっと喜びを与えられる立場となって成長してされると期待しております。摂南大学の8名の皆さんは、朝早く出発をしてこの日のために船頭役を引き受けていただきました。初めての皆さんへ温かい言葉をかけて安全に喜びを与えて下さって有難うございました。特に亀岡の保津川で事故があり社会的に大問題になっている中、本当によく頑張ってくださいました。有難うございました。



●4月8日(土) 9:30~12:30 「春の野草を食する会」の開催 公開募集で50人満杯の申し込みとなりました。申し込みで外れた皆さん、申し訳ありませんでした。私たちスタッフの力量もあつてこれくらいでしか受け入れができず申し訳ないと思います。昨年に引き続いて50人規模で開催いたします。里山農園も皆さんの力を発揮していただき、ずいぶん斜面やあぜ道の雑草が駆られて美しい手入れが行き届いた農園になってきました。鶯の声が谷間に響き渡り、蓮華やタンポポが目立ち始めるこの時期、山の春の訪れを感じて英気を養ってください。昨年は火を起し機の製作をいたしました。今年はどんな楽しいことが用意されているのでしょうか。これはご参加されてのお楽しみとして取っておきましょう。昨年の

冬白土山洞穴への周遊通路を、同志社大学サッカー部の皆さんに作っていただきました。そこへのハイキングも楽しいでしょう。オオムラサキを発見できるかもしれません。丸山からのかけっこも楽しいですよ。こんな事をしながら少しずつ里山農園を充実させていきましょう。

●ヤマトサンショウウオの池、お天気続きで干上がりが心配

ヤマトサンショウウオの卵のうは生育して 13 mm程に生育して泳いでおります。ただ、お天気続きで流入する水が減り池の干上がりが心配です。早く雨が降ってほしいものです。

2023 年 4 月 1 日 親子花見乗船体験 参加者の感想文（一部）

- ☆ 大学生の学生さんおもしろくやさしかった
- ☆ 今日初めてボートやカヌーに乗りました カヌーでは少しぬれてきもちよかったし ボートでは、みんなであわせてこぐのが楽しかったです
- ☆ 初めての体験でした 親子で花見乗船させて頂きましたが親よりも子どもたちの方が怖がらずに思い切ってパトリングをしていました。桜の時期になかなかできない経験ができて親子でいい思い出になります。スタッフの皆さんも気さくで、親切で、とても安心して参加させてもらいました。今日は有難うございました。今後も参加させてもらいたいと思います。
- ☆ 昨年に引き続き 2 回目の参加です。今日も天気が良く桜もきれいでとてもいい経験をさせていただきありがとうございます。カメやスッポンのお話もきかせていただき有難うございます。また参加させていただきたいです。
- ☆ 無料でこのような花見を楽しめるのは、とても満足しました。子供達もボートをこぐのが楽しかったようで、次もまた来たいと言ってます。コロナでこういったイベントが減っていたので感謝です。
- ☆ ボートをこぐのが楽しかったです桜もきれいで、皆でボートをこげてたのしかったです。ありがとうございました。
- ☆ そこがみえて、きれいだった。もういっかいのりたいたいです。
- ☆ とてもたのしかったです。大学生さんととても丁寧に対応してくれました。ありがとうございました。
- ☆ とてもステキなイベントでした。川の中から桜並木を見上げる経験ができないので思いで深い体験でした。オールを自分でこいでボートを動かすのも楽しかったです。子供も楽しんでいました。
- ☆ 船でお花見ができて、とても貴重な体験ができました。オールでこいだり、満開の桜を見れたり、水面に花びらが浮いているのを見られたり、本当に美しく楽しい時間でした。
- ☆ ぬれたけどたのしかったです ひとりで船にのってみたい おはながきれいだった

●小川芳也さんの松江通信 No. 25

頻発する洪水による水害に対して頭を抱えていた城下町の住民のもう一つの悩みは地盤沈下でした。先週のニュースで記載しましたが、城下町は埋立て地に形成されています。当時の技術で地盤沈下が発生しないようにすることは不可能でしょうから、ゆっくりと沈下が進んでいった筈です。そこで、住民は洪水対策と圧密沈下対策として嵩上げを行っていました（河原荘一郎、松江城下町遺跡の土質試験）。ただ、現在のように一斉ではなく、それぞれの屋敷が作業に掛かる費用や被る被害を勘案しながら嵩上げ盛土を実施していたようです。

また、松江藩は大橋川の南側に放水路として流路延長が約 4.3 kmの天神川（1869 年完成）を開削しています。しかし、天神川の放水路機能は土砂堆積により約 50 年で消失（前出の大矢幸雄の報告による）してしまいます。さらに 1702 年や 1721 年、1783 年など記録に残るような大きな水害が起こっていたことから新たな治水対策が計画・実施されました。それが松江城より 3 kmほど西側に位置した低平地の佐陀地域と日本海側の恵曇を繋ぐ佐陀川です。この続きは次回に・・・